

## 令和2年度 鎮西高等学校 学校評価

### 【 総務 】 部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
4人の総務部全員が1つ1つの分掌課題に対しや っていかねばならないが、一部の職員に仕事が集中 している状況をどう改善するかが課題である。	コミュニケーションを図り、総務の仕事量の多さを 理解してもらい、皆で支え合えるように仕事を分散 する。そのためには誰でもできるように仕事のやり 方を変え、その方法を把握してもらおう。	B	「育誠会だより」を年1回、「鎮西通信」を年1回、「学 校要覧」「四恩」を予定通り発行出来るのは困難である。 入学式、卒業式は生徒のみの参加で保護者には気の毒 であったが卒業式はライブ配信を行い新しい生活様式 にあったものだと思われる。始業式、終業式は放送で行 った。、遠足や文化祭は中止になったのは残念だった。 また、名票、備品の作成、注文は適切だった。寮に關す る仕事も適切だった。

## 【 教務部 】 部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
①コロナ禍における生徒の学力保証のための授業時間数の確保	今年度は、新型コロナの感染拡大に伴い学校が4月・5月と休校となった。そのため学校として、休校期間中にそれぞれの教科の教科書に準拠した授業相当分のプリント配布や、教科によってはプリントの説明をオンラインによる配信もおこなった。 6月の学校再開時から、8月の初旬までを登校日にあて、1学期の終了とした。2学期の始業を8月後半からスタートさせた。	B	現在の業務を次年度も実施することで、円滑な授業実施が見込める。また、本校においても、ICTを活用普及が課題となった。
②教育課程や教務規定、その他の教務部に関わる情報等の全職員への周知徹底	教育課程においては、令和3年度、そして、令和4年度には、新教育課程となるため、教科主任会を定期的に開くなどした。また教務規定においては、関係施設からの登校者もいるため、新たな項目を教務規定に加えた。情報共有のため、運営委員会にて提案し、職員会議を開催するなどして承認を得た。	B	職員会議等における情報提供は一定の効果がみられた。次年度も職員会議の機会を増していきたい。
③他部署との連携、情報共有	日ごと、週ごと、月ごとの業務を明確にし、ルーティーン化することで、効率化を図りつつ正確性も追求する。	B	事務局や総務部との連携はしっかりと実現できた。しかしながら、学校行事中止、や変更にともない、事務局や総務部以外の連絡が徹底出来なかったケースもあったため、担当者レベルでの打合せ等実施していく。

## 【 生徒指導 】部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
1. 品性ある身だしなみやマナーを心得た生徒を育成する	教育活動（授業・HR・部活動等）や放課後においても、服装指導を徹底するとともに礼儀正しい生徒を育てる。	B	服装、頭髪検査においては、違反者は減少しているが、検査の時だけの生徒も見受けられる。普段から品性ある身だしなみを身に付けさせたい。また、公共の場におけるマナーの向上を目指して指導を継続したい。
2. 盗難予防の徹底	貴重品の管理と教室、部室、自転車等の施錠を徹底し、自己管理能力を高め、安全安心に生活できる学校づくりを図る。	B	盗難は、外部侵入等の可能性もあることを踏まえ、門扉の施錠や来訪者の確認及び巡回体制の見直し等、防犯体制を確認する。 生徒の動向の把握（計画的な校内巡視体制、遅刻者や早退者の把握、空き教室の施錠等）に努める。
3. いじめ防止	いじめ問題は、早期発見や早期解決、未然防止に向けて、チームで対応することが大事になる。アンケートや聴き取りによりいじめの早期発見に努めるとともに、日常的に担任、学年、関係職員間で情報の共有化を図る。	B	生徒一人ひとりが、互いの良さを認め合い、集団の一員として協力し合える人間関係を育むための教育活動の充実を図る。 生徒や保護者が精神的に不安定になっている場合、カウンセリングや専門機関によるケアを受けるよう勧める。
4. 授業中に携帯電話を扱わせない	各教員が授業中に携帯電話を扱わせない授業内容を実施し、万が一扱った場合は携帯チェックに記載し、段階を踏んだ指導を実施する。	B	各教員の授業内容を充実したものにし、万が一携帯電話を扱った場合に携帯チェック表を有効活用出来るように努める。

## 【 進路指導 】 部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
<p>1 職業観の育成・進路目標設定 (生徒の社会的自立に向けて、高校生として必要な基盤となる能力や態度を育てる)</p>	<p>特に各学年部、教務部と連携し、学校全体で進路意識の高揚をはかり、進路目標を設定させる。また、各学年で進路希望調査を行い、各担任を通じて、生徒一人ひとりの希望を把握する。</p>	<p>B</p>	<p>新年度が始まって直ぐから休校が続いたため、生徒の動きも悪く例年に比べ、進路先の決定も遅く、受験先決定に時間がかかった。次年度は、受験先決定の時期を早め、より細やかな共通理解をはかり、学年との連携を強化し、指導にあたりたい。</p>
<p>2 受験対応学力向上を目標とし、必要に応じて情報を提供し、指導・支援に全職員で臨む。</p>	<p>生徒に対して、学校案内・会社案内・求人票など、必要に応じた情報を提供する。また、進路部所属職員による進学・就職相談も実施する。</p>	<p>A</p>	<p>就職の受験が1ヵ月遅くなり、進学のとおり重なったが、事前に準備が整ったため、進路目標が定まった生徒及び保護者に対して、しっかりと情報提供ができた。自らの進路実現に向け、自主的に学習に取り組む生徒が増えている。</p>
<p>3 受験生の進路実現に向け全職員で指導支援にあたる。</p>	<p>受験生に対しては、以下の手だてを講じる。 校内模試・対外模試・添削指導(強化学習、小論文、願書等に係る提出書類) 日常的な礼法マナー教育・面接指導等</p>	<p>C</p>	<p>3学年に適切な指導は出来たが、基礎学力不足のため数名の不合格を出してしまった。1. 2年のときから進路について考えさせ基礎学力を身に着けるさせるための長期的なプログラムが必要である。</p>

【 保健体育 】部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
①健康課題を発見し、主体的に問題解決に取り組む学習が不十分であり、社会の変化に伴う新たな心身の健康・安全問題に対応した指導を徹底する。	個人及び社会生活における健康。安全について理解を深めるとともに、技能を身につけるようにする。	A	健康調査カード等を利用して生徒の健康状態の把握を徹底した。
②健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生徒が習得した知識や技能を活用して課題解決する力を授業において育成する。	A	いろいろな情報に気配りをしながら状況に応じて丁寧に対応し指導した。
③文武両道で安全な自己実現の指導に努める。	体育の授業の実践は、技能の獲得とともに、ルールやマナーを大切にしようとする自己責任を果たそうとするチームの合意形成に貢献しようとするなど、公正・協力・参画などに対する態度の育成にも資するものである。また健康で安全についての理解は健康の大切さを知り、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善することに繋がるよう指導する。	B	学力の向上は勿論、人間性を豊かにする能力を養い、体力の向上を徹底した。

## 【 生徒募集 】部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
①募集活動の強化及び中学校や塾等への適切な情報提供と対応	<p>(ア) 学校案内、ポスター、CM制作を早めに取りかかる。選択科目制の魅力や特色について中学生や保護者にわかりやすく伝わるよう、紙面及びプレゼン資料、映像内容の工夫と充実を図る。</p> <p>(イ) 学校説明会、塾対象説明会、部活動体験会等に加え、選択科目の授業体験会を開催する。個性を重視した教育の取り組みについて広く知ってもらう機会を設ける。また、学校説明会等では、オンラインライブ配信をし、広域的な広報活動をする。</p> <p>(ウ) 中学校や各方面からの要望にはできる限り応える。→説明会参加者希望者の名表の提出などは中学校に依頼しない等。但し、保険の都合上必要な体験会では掌握をする。</p> <p>(エ) ウェブページ及び各種メディア、SNS を効果的かつ適正に活用する。</p>	A	<p>今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、対外的な説明会等の開催は中止を余儀なくされた。加えて、募集活動開始時期については例年より遅れてしまい、挽回するための創意工夫が必要だった。</p> <p>新たな取り組みとして臨んだことは、県内全中学校に学校紹介 DVD を配布したこと、インターネットを利用した広報活動に力を入れたこと等があげられる。具体的には、公式 YouTube チャンネル「鎮西 TV」を開設し、学校生活や授業公開、施設および部活動の紹介をした。また、SNS での情報発信をこまめに行った。紙媒体では、熊本市政だよりの活用も一定の効果はあったと推察している。</p> <p>結果として、これらの取り組みと他の分掌職員との連携により、今年度の募集活動は県内中学3年生の生徒数が前年度と比較して大幅に減少していたにもかかわらず志願者数は100名以上増加、そのうち専願奨学生の数は約50名増加した。</p>
②オープンスクールの内容の充実を図る	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて開催を中止した。	無	<p>今後は、早期に募集の方向性を固め、中学生に対して各説明会及び体験会等の開催日時をいかに周知させるかが課題。まずは学校案内を早期に完成させ、各中学校に送付し、オープンスクールの集客力を高めたい。また、WEB 出願についても検討しなければならない。</p>
③ウェブページの内容の充実と更新	ウェブページでは最新の情報を発信する。写真や動画についても閲覧者の興味を引く内容を掲載する。	A	

【 高校1年 】部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
<p>① 学校生活の充実…基本的な生活習慣の確立</p> <p>a 挨拶・礼の徹底</p> <p>b 頭髪・服装の自己規制を意識づける</p> <p>c 遅刻・欠席・早退を安易にさせない</p>	<p>高校生として落ち着いた生活を送れるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の欠席・遅刻の連絡については必ず保護者から連絡してもらう。</li> <li>・欠席や遅刻の連絡がなく生徒が来ていない場合には必ず保護者に連絡を取る。</li> <li>・欠席が続くようなら家庭訪問をする。</li> <li>・服装・頭髪に関しては検査の際だけではなく、HRや授業その他の場面で適宜行う。</li> </ul>	<p>A</p>	<p>各担任が個別に面談、遅刻指導を行い、欠席した家庭への連絡を行い、悩みや欠席の多い生徒を学校カウンセラーやSSWのカウンセラーと連携して、保護者や本人との相談を密に行った。また服装や頭髪についての指導も適宜行った結果、落ち着いた学校生活が送れている。(ただしコロナ流行下での学年全体の集まりは自粛した)</p>
<p>② それぞれの生徒の進路に応じた指導の充実</p> <p>a 授業重視…一時間一時間の授業の中で確実に力をつけていく</p> <p>b 課題提出の徹底…教科担当者と担任の連携をはかる</p> <p>c 面談の徹底…2者・3者面談で生徒のニーズを確実に</p> <p>d キャリア教育の充実…自分の進路をHRや総学の時間などで考えていく</p>	<p>生徒が一時間一時間の授業の中で確実に力をつけていく為に、教科担当者と担任の連携をはかる。進路を考える上でこまめな2者面談で生徒のニーズを確実につかみ、家庭訪問や3者面談の機会を利用して保護者のニーズもつかみ、それぞれの進路を考える契機とする。</p>	<p>A</p>	<p>担任と教科担任が連携しながら、授業を大事にする態度を醸成することができた。2者面談やHR活動の中で、それぞれの生徒が自分の進路を考えることができた。また、学年末考査の前には赤点の危惧のある生徒を対象に勉強会を実施した。</p>

【 高校2年 】部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
<p>①学校生活の充実…基本的生活習慣の確立</p> <p>a 挨拶・礼の徹底</p> <p>b 頭髪・服装の自己規制を意識づける</p> <p>c 遅刻・欠席・早退を安易にさせない</p>	<p>高校生として落ち着いた生活を送れるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の欠席・遅刻の連絡については必ず保護者から連絡してもらう。</li> <li>・欠席や遅刻の連絡がなく生徒が来ていない場合には必ず保護者に連絡を取る。</li> <li>・欠席が続くようなら家庭訪問をする。</li> <li>・服装・頭髪に関しては検査の際だけではなく、HRや授業その他の場面で適宜行う。</li> </ul>	B	<p>各担任が個別に面談、遅刻指導を行い、欠席した家庭への連絡、長期に欠席する生徒への家庭訪問など適切に行い、また服装や頭髪についての指導も適宜行った結果、落ち着いた学校生活を送れている。しかし、一部の生徒に頭髪等の極端な乱れがあり継続して指導中である。</p>
<p>②それぞれの生徒の進路に応じた指導の充実</p> <p>a 授業重視…一時間一時間の授業の中で確実に力をつけていく</p> <p>b 課題提出の徹底…教科担当者と担任の連携をはかる</p> <p>c 面談の徹底…2者・3者面談で生徒のニーズを確実に</p> <p>d キャリア教育の充実…自分の進路を HR や総学の時間などで考えていく</p>	<p>生徒が一時間一時間の授業の中で確実に力をつけていく為に、教科担当者と担任の連携をはかる。進路を考える上でこまめな2者面談で生徒のニーズを確実につかみ、家庭訪問や3者面談の機会を利用して保護者のニーズもつかみ、それぞれの進路を考える契機とする。</p>	B	<p>担任と教科担任が連携しながら、授業を大事にする態度を醸成することができた。2者面談やHR活動の中で、それぞれの生徒が自分の進路を考えることができた。</p>

【 高校3年 】部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
①進路実現の為の指導	学年集会を通して、生徒の進路意識を高めさせ、進路実現に向けての早めの行動を促す。 担任が二者面談や三者面談を行い、進路決定を確実に進める。	B	各クラス、二者面談や三者面談を実施し、生徒や保護者の希望を把握し進路指導部と連携しながら進路実現に向けての支援が出来た。
②進学・就職試験への対策	担任が進路指導室の係と連携しながら、個々の生徒に適した情報収集に努め、早め早めの指導を行う。	A	小論文指導や面接指導など担任がこまめに指導助言し、生徒の力をつけさせることが出来た。
③卒業に向けての教科指導と生活指導	担任による生徒への声掛けを通して、学習意欲と生活習慣の見直しを促す。	A	卒業判定会において、全員が合格点の成績を収めることが出来た。